

【 聖隷こども園めぐみ 2023 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

目的：浜松磐田地区の聖隷こども園・保育園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

自然環境に恵まれた施設の中で、子どもたちが斜面の昇り降りを経験したり、金柑の実を見つけて触れたり、また、小枝を拾い集めたりと思い思いに過ごし、それを保育者が温かく見守る様子が印象的であった。多クラスが同じ空間で共に遊ぶ中で、職員間での連携をとりながら、担任以外の保育者も子ども一人ひとりと関わる。そこには、子どもに対してだけでなく、職員も互いに認め合い、信頼関係を築いていることが伺えた。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

- ・保育者主導ではなく、子どもの日頃の姿に沿い、保育活動が計画され、また、それが、自由な遊びの時間の中で展開されることで、子どもの主体性が尊重されていた。このような保育・教育の中で、子どもの心情、意欲、態度も育まれると考えられる。
- ・0歳児クラスの食事の場面においては、保育室の物的環境を最大限に活用し、子どもがゆったりと個々のペースで食事をできるような配慮がされていた。子どもは食べることに楽しみや意欲を見出し、健やかな心身の成長発達に繋がると考えられる。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

入園時の同意書を元に、適切に扱っている。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

苦情解決制度について職員間で共有し、園だよりやホームページなどで公表している。内容に応じて、特定の職員との確認や振り返りをしたり、職員会議で共有したりと真摯に、次に繋がる対応をしていると感じる。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

職員間の情報共有の他、保護者には、掲示板やアプリのお知らせ機能を活用して情報提供をしている。また必要に応じて、行政への報告も適切に行われている。

高齢者を含む多様な利用者が生活する複合施設の中で、感染症対策については一層注力しており、職員のマスク着用は継続しているなど、複合施設の対策水準に則っている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

園の策定する学校安全計画に則り、定期的な訓練の実施の他、職員向け講習を行っている。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

- ・補修・修繕等の必要な箇所の報告や相談が多いとのことで、施設や設備の経年劣化も否めないが一方で、職員の問題意識の高さも伺えた。
- ・役割に応じた研修の機会が設けられ、それを更に園内にて伝達研修するなど、効果的に活用している。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

全体的に、整理整頓、清掃ができており、清潔感がある。子どもたちの作品の飾り方についても工夫や、主体性の尊重が感じられた。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

各年齢において、子どもの興味関心に合わせた環境設定がされていた。特に1歳児（高月齢）の、大人とゆったりと絵本を楽しむことのできる環境、5歳児では、ランチタイムを導入し、子どもが時間管理をする中で、その時間の遊びも保障されるような環境の工夫が見られた。一方で、1歳児（低月齢）・給食前の時間帯の遊びが、どうしても制限されてしまうことは改善の余地があると感じた。保育室の広さや、職員体制の限界もあるが、限られた中でも子どもの主体的な遊びの保障を考えられると良い。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4歳児

- ・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

特に 0～2 歳児クラスの子どもたちに於いては、様々な思いが安心して表され、保育者に受け止められる場面が屋内外共に、一日の中でも多々見られた。2 歳児の食前のお祈りでは、職員の祈りの文末を子どもが共に声を揃えて言う場面があり、まだまだ祈りの意味まではわからぬものの、こういった積み重ねが神さまの存在を感じるきっかけになっていくのだろうと思われた。

3～5 歳児でも、友だちとの関わりが、遊びや生活を通して深まっていることが感じられ、目標を意識した保育・教育の展開がなされていた。

【全体を通して】

開設 7 年目ということで、少しずつ職員が経験を積み重ね、園長・主任との信頼関係を基盤として、職員間でも良い関係を築いてきていることが、保育の様子だけでなく、職員面接からも伺えた。また、与えられた職位に基づき、副主任が研修を受け、それを個々に整理して行った伝達研修が、保育の質の向上に繋がっていることもわかった。副主任の保育計画からも、研修が良い刺激となったことが感じられ、頼もしい。

前述「保育室」の項目に記載した内容、その他、併設する施設の庭での過ごし方においては、より子どもの主体性が尊重される保育の方法や環境について、工夫次第で可能性も広がると思われるため、そこは今後期待したいところである。

評価日 2024 年 1 月 17 日

評価者 園 名 聖隷浜松病院ひばり保育園

役 職 園長

氏 名 森下 美由紀